



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル：トルコとの関係

イスラエルとトルコに関係改善の兆しが出てきた。イスラエルにとって、地域の大国で、NATO加盟国、非アラブであるトルコは、近隣諸国の中で最も重要な国の一つであり、両国は良好な関係を維持してきた。しかし、2010年5月、両者の関係は決定的に悪化した。ガザに向かっていたトルコ船籍の支援船をイスラエル軍が襲撃し、トルコ側に死者9人が出たためである。トルコ側は、公海上での海賊行為だとイスラエルを激しく非難し、謝罪と賠償を要求した。イスラエルは、テロに対応する措置であると高飛車な態度でトルコの非難をはねつけた。その結果、良好だった関係は急激に冷え込んだ。その後も、トルコ側は、イスラエル側の謝罪と賠償を求める姿勢を維持し、国内では支援船襲撃事件の裁判を開始していた。

両国間の関係変化の兆候と推定される動きが連続的に報道されはじめたのは、2012年の秋頃からである。9月17日、トルコのエルドアン首相は、イスラエルが数カ月前に関係修復のための特使を派遣してきたと述べている。11月22日には、ガザでの停戦協議がエジプトのカイロで行われた際、イスラエルの諜報機関モサドの長官とトルコ国家諜報長官が会談をした。24日には、ネタニヤフ首相特使とトルコ特使（外務次官）がジュネーブで会談している。25日、トルコのダーヴトオール外相は、イスラエルとの非公式な接触を確認した。イスラエルのハアレツ紙（25日）は、イスラエル側は謝罪と賠償に前向きな姿勢を見せたと報道している。12月24日、トルコは、NATOの非軍事的な活動にイスラエルが参加することへの反対を取り下げた。2013年1月下旬、米国がパキスタン軍誤爆事件について謝罪した際の文章について、アヤロン副外相が、トルコへの謝罪文の参考になると発言している。

2013年2月以降、両国間の関係改善を示す、具体的な動きが出始めている。2月11日、イスラエルはトルコがガザに建設する資材の搬入に合意した。2月18日、イスラエルは、2010年5月以降、初めて、トルコ空軍の使用する機材へのコンピューターソフト供与を行った。20日にはトルコ紙が、同国外交筋の話として、イスラエルが部分的な謝罪をする方向で秘密協議が行われていると報道した。24日、イスラエルのハアレツ紙は、外交筋の話として、最近、バラク国防相が、自身がトルコに謝罪するとネタニヤフ首相に提案したが、首相が拒否したと報道している。

トルコとイスラエルの関係が改善する方向にあるとすれば、その背景としてシリア情勢の不安定化があるかもしれない。イスラエル側の報道では、2012年10月、イスラエルはトルコに両国関係は別にして、シリア情勢などの地域情勢を協議したいと提案したが、トルコ側が拒否している。また米国や NATO が、シリア内での紛争に対処するためには、シリアの北に位置するトルコと南にあるイスラエルの関係が悪化したままでは、軍事的対応を取る必要が出た場合、障害になると考えても不思議ではない。

2010年5月のガザ支援船襲撃作戦では、他の支援船は、無抵抗でイスラエル軍に拘束された。トルコ船籍の乗員だけがイスラエル軍部隊に抵抗した結果、死傷者が出ている。イスラエル軍が、早い段階で、作戦ミスを謝罪していれば、両国間の関係がこれほど悪化することはなかったかもしれない。イスラエルがトルコのメンツを尊重する行動を取れば、トルコにとってイスラエルとの関係を悪化させておく必要はない。

(中島主席研究員)